

## ・事業報告

### 1. 事業概要

#### (1) 事業実施背景

山形県は、全国でも有数の食料生産県として豊富な生物資源とその活用を意図した遺伝子工学をはじめとする生物分野の技術が蓄積されている。工業分野においては、電気、機械などの研究開発型企业が数多く立地しているほか、本県が戦略的な研究分野として位置づけ、山形大学工学部と生物ラジカル研究所を中心として精力的に推進してきたライフサポートテクノロジー（生命・生活支援工学）に依拠する生命活動センシングの基礎理論から応用技術までに関する高度な研究集積がある。

また、山形県新総合発展計画（平成7年2月策定）では、県政推進の3本柱の1つに、「新時代を拓く産業革新」を掲げ、既成の産業基盤の発展と新たな社会ニーズに対応した産業の創出を推進することとしている。

本事業は、このような背景のもとで、地域の研究ポテンシャルを核に生物分野と工業分野の技術融合による研究集積を図り、独自性を持つ多彩な食材と生物材料の創生をとおして競争力に優れた産業の創出を目標とするものであり、併せて、研究開発とその事業化が相互に循環、フィードバックしながらより高度な形で発展するネットワーク型の地域COEの基盤構築を目指した。

#### (2) 事業推進体制

山形県における事業推進体制を図1に示す。

##### ア 事業総括

事業総括（財団法人山形県企業振興公社理事長）は、本事業の総合的統括者として、事業の促進、県・参画企業・大学等の調整、研究交流促進会議の主宰・運営、事業計画の決定など、事業運営の根幹に係わる役割を担った。

特に、事業の促進に当たっては、共同研究については研究統括と、事業化については新技術エージェントと密接に連携し成果の拡充に努めるとともに、事業全体を見通した運営体制の整備、地域COEの構築に向けた方向性の検討などにおいて、中心的な役割を担った。

##### イ 研究統括

研究統括は、本事業の研究に係わる責任者として、共同研究推進委員会の主宰をはじめ、研究目標、研究方針の決定、研究の進行管理など研究全般にわたる業務を遂行した。

特に、本県のテーマが生物系から工学系まで広い分野を対象としていることから、統括補佐との分担と連携に努め、研究代表者会議、組換えDNA実験安全委員会、研究グループ会議などで研究内容や研究手法に対する指導助言を行うとともに、研究員の外部発表や特許申請について指揮監督を行った。平成14年度から原田統括を引き継いだ原

教授は、研究の重点化と成果重視の環境づくりを進め、一層の研究促進を図った。

その他、研究発表会、メディアに対する取材対応などを通して事業の広報啓蒙を行い、関連企業、関係機関、県民に対し研究プロジェクトの理解醸成に努めた。

#### ウ 新技術エージェント

新技術エージェント（株式会社マーケティング・トレジャー代表取締役）は、研究成果の特許化とその事業化展開について中心的役割を担い、その体制づくりと支援に努めた。

具体的には、研究代表者会議や研究グループ会議、研究者個々との打合せにおける特許化を前提とした研究への意識づけ、関係特許事務所との連携による特許化戦略策定に対する支援、市場情報検索、試作品の市場調査、ビジネスプランの作成支援など研究成果の事業化を支援するための「生物機能工学事業化研究会」(Making Business Association 略称MBA、会長日東ベスト㈱会長鈴木俊幸、平成11年7月設立)の企画と運営、技術移転先となる企業の選定支援を通じ、研究成果の事業化促進を図った。

#### エ 研究代表者等

研究代表者等（生体高分子研究：山形大学助教授半澤直人、有用微生物研究：山形大学教授河東田茂義、果樹分子育種研究：山形大学教授鈴木隆、生命活動センシング研究：生物ラジカル研究所副所長大矢博昭、複合技術融合：コア研究室白石卓夫）は、サブテーマ毎の研究グループ会議を開催し、参画機関の連携、共同研究の促進、成果のとりまとめを担った。

#### オ 中核機関

財団法人山形県企業振興公社は、事業総括、研究統括、新技術エージェントとの連携の下に、研究促進、事業化促進の観点での予算運営、研究体制の管理、成果発表会・報告会の開催、各委員会の開催、特許及び外部発表の管理、ホームページの開設と運営、成果移転事業への橋渡し、MBAの事務局運営等、中核機関として事業の円滑な運営を行った。

#### カ コア研究室

コア研究室（山形県高度技術研究開発センターに設置）は、共同研究に参画する産学官組織の共同研究ネットワークの核として、基盤的な研究とサブコア研究室（山形県工業技術センター、山形県立園芸試験場、山形県農業研究研修センター）との複合的な研究を担った。

また、サブコア研究室は、各々の立地を生かした応用研究を担うとともに、コア研究室との複合的な研究課題に共同で取り組んだ。

#### キ 事業参画機関

参画大学等（山形大学、山形大学大学院、東北大学大学院、東北工業大学、生物ラジカル研究所）は、研究統括、研究統括補佐、研究代表者等、指導的役割を担う形で事業に参画した。